

気仙沼・本吉圏域の観光の現状・課題・方向性及び具体的な取組の視点について

圏域の観光の現状

周遊性

観光客入込数は、ようやく震災前の水準を上回ったものの、宿泊観光客数は今なお震災前の水準に届いていない。

- ◆ 気仙沼圏域の令和元年観光客数
 - ・ 観光客入込数 3,711千人
【H22年比102.4% H30年比126.0%】
 - ・ 宿泊観光客数 416千人
【H22年比94.4% H30年比105.1%】
- ※令和元年観光統計概要(速報値)

情報発信力

魅力ある観光資源が多数存在しているにもかかわらず、それを外部に伝える情報発信力が弱い。

ニーズの変化

コロナ拡大により、観光ニーズが変化してきている。

- ・ 密になりやすい屋内の観光が避けられ、アウトドアの観光が人気となっている。
- ・ 教育旅行は、行先が首都圏から感染者が少ない地域へ移行し、大型バスでの一斉移動や大規模宿泊施設での宿泊が見直されてきている。

感染リスクへの不安

首都圏など感染症が拡大している地域との往来にはまだまだ躊躇がみられる。

ポジティブ要素

三陸沿岸道路延伸、気仙沼がNHK連続テレビ小説の舞台として決定するなどポジティブな動きがある。

アクセス

仙台空港や仙台駅からの交通アクセスが良くない。

圏域の観光の課題

- 圏域内における滞留性・周遊性を高めることが必要
- 圏域の観光コンテンツ・食・宿泊・ショッピング施設を一体的に楽しめるような取組が必要

来訪の動機付けとなるような当圏域の観光資源の魅力をより効果的に伝える情報発信が必要

変化した観光に対するニーズを的確に捉え、振興施策を講ずることが必要

- 受入れ側の感染リスクに対する不安感を払拭することが必要
- 当面、県内在住者の県内における観光需要を喚起していくことが必要

仙台⇄岩手・八戸間の単なる通過点とならないよう、三陸沿岸道路を活用する観光客に当圏域に立ち寄ってもらう手立てを講じることが必要

圏域へのアクセスを改善することが必要

回復戦略や成長戦略などの方向性・具体的な取組の視点

登米市、栗原市、岩手県南部地域を含めた広域的な観光パッケージの造成など、より多様な観光コンテンツの提供

当圏域の観光資源の魅力や宿泊施設・観光関連施設等における安全安心の取組についての効果的な情報発信
⇒YouTubeやNetflixなどデジタル媒体のほか、マップや看板など従来からの媒体も含めた幅広い実施

- 自然豊かな当圏域の特性を活かした新しい観光モデルの構築
- 教育旅行のニーズの変化に的確に対応したプランの造成と地域内事業者の連携した取組
- ワークেশンの需要の調査

- 県による感染症拡大状況に応じた対応ガイドラインの明示など、事業者の不安軽減の措置
- 県北地域と県南地域を相互に交流した場合の割引宿泊券の発行など、県内在住者向けの新たな観光誘引策

各インターチェンジ設置地域の知られざる魅力を掲載したドライブマップの作成やスタンプラリー事業など、三陸沿岸道路とからめた観光プランの造成

交通手段間連携によるダイヤ乗り継ぎ改善や接続交通運行などに対する助成

※下線部分については、県全体で取り組むべきものとして、「みやぎ回復戦略」21ページ「宮城県全体」に整理したことから、20ページ「気仙沼・本吉圏域」から除いたもの。